

# 単刀直言

特別編

## 北側一雄 公明党副代表

安倍晋三首相が週内に衆院解散に踏み切る意向を固めたことを受け、公明党の北側一雄副代表も走り始めた。首相が真意を説明する記者会見を「勝敗の分かれ道」と注目。「宣戦布告」した維新の党には「挑発に乗らない」と冷静さを保ちつつも、すっかり戦闘モードだ。

「こんな急激に解散風が吹くなんて、1週間前でも想像しなかったよ」

首相は18日に記者会見を行い、来年10月の消費税率10%への再引き上げを1年半先送りし、週内に衆院を解散する意向を表明する。

「増税先送りには意見がありますが、私は首相が再増税の無条件延期なんてしないと断言します」

増収になるはずだった税率2%再引き上げ分の5兆円は全額、社会保障費に充てることになっていた。そこに穴が開けば、首相肝いりの子育て政策などに影響が出かねない。

「仮に先送りするなら、『財政健全化は必ずやる』という強いメッセージがほしい。『1年半後は必ず増税する』という決断も必要でないでしょうか。子育て政策は国家的課題だけに、何があっても予定通り進めなければいけませんね」

## 首相「解散」会見 勝敗決める 維新挑発 乗らぬことが大事



(酒巻俊介撮影)

評判のよくない再増税を嫌った「ポピュリズム」この批判も出かねない。

「だから18日の記者会見が決定的に大事。選挙の勝敗を決するとすら思います。増税をなぜ先送りするのか。経済に対する首相の懸念を分かりやすく、強い信念を持って語れるか。ぜひ気迫をみせてほしい」

北側さんには別の難題もある。地元の衆院大阪16区では、「大阪都構想」をめぐる争いを理由に、維新の党幹事長の松井一郎大阪府知事が「刺客」として出馬を検討しているからだ。

「維新はワーツと火花を打ち上げますが、挑

発に乗らないことが大事です。大阪の知事や市長が連日全国紙をにぎわすなんて、ある意味大したものですよ。しかし今の大阪は、物事が前に進まず、目の前にあるのは混乱だけ。一時期の期待感がしぼんでいるようにも見えますがね」

目は「来るなら来い」と戦闘モード。なにせ戦う選挙は「衆院選」だ。集団的自衛権行使容認に絡む安全保障法制の整備や消費税の軽減税率導入など、国家的課題の解決に中心的な役割を果たしていることも自信の原動力になっている。

「与党は国会に『商品』を提供するのが仕事。その製造過程では、自公が同じベクトルを向く話ばかりでない。ここでいかに合意形成できるかが政治。過去の民主党政権は苦手でしたよね。だから国民に信を問う前、安保法制で与党合意できた意義は大きいのです。自公が連立を組んで15年になるが、お互いの強みと弱みが分かるようになってきましたよね」

北側さんが、ふっと表情を和らげて語る。

「安保の与党協議の最中、ある自民党議員からこっそり『もつと頑張って』といわれました。党内で嫌われ者になりたくないが、公明党が代弁してくれるから安心できると。変な話ですが、自公でいい信頼関係ができています。今はリスク覚悟で勝負に出る首相を支えますよ」

取材当日、北側さんは安全保障関連法案をめぐり、自民党の高村正彦副総裁と話し合っ予定だったが「今は頭に入らない」と延期を申し合わせた。あらゆる政治的な動きを止めても、首相が世に問うものとは何か。北側さんは決意の言葉を見守っている。

(水内茂幸)